

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度高松市歴史資料館等協議会
開 催 日 時	令和4年6月1日（水） 13時30分～16時00分
開 催 場 所	サンクリスタル高松3階 第1集会室
議 題	(1) 令和3年度高松市歴史資料館等事業実績について (2) 令和4年度高松市歴史資料館等事業計画（案）について (3) その他
公 開 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	田中委員、寺林委員、仁科委員、篠原委員、中澤委員、太田委員、鎌田委員、安田委員、塩田委員、中村委員、日下委員
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 び 連 絡 先	文化財課 歴史資料館業務係 861-4520

会議内容

令和2年11月の改選後、最初の協議会開催のため、委員の互選により、会長に田中委員、副会長に鎌田委員を選出した。

その後、各議題について事務局から報告及び説明を行い、次のとおり委員から意見が出された。

議題(1) 令和3年度高松市歴史資料館等事業実績について

(委員)

塩江町に歴史資料館という施設があるが、高松市の施設ではないのか。

(事務局)

高松市の施設ではなく民間運営の施設となる。

(委員)

博物館法が一部改正され来年度より施行されるが、各館はどの施設に該当するのか。

(事務局)

石の民俗資料館が登録博物館、歴史資料館が博物館相当施設、香南歴史民俗郷土館と讃岐国分寺跡資料館が博物館類似施設に該当する。

(委員)

讃岐国分寺跡資料館について、平成30年度の一日あたりの入館者数は何人か。

(事務局)

9. 6人から22.5人ほどとなる。5つの企画展を開催しており、それぞれの期間で異なり、平均だと10数人ほどとなる。

(委員)

各館において地域との関わりなどが重要と考えるが、各館での役割や地域性を教えてほしい。

(事務局)

高松市の市町合併に合わせて、4つの館がひとつの博物館として機能するよう役割を分化しているため、各館ともに地域に根差して活動をしてきた実績がある。そうした中で、それぞれの地域とより密に関わって展示や教育普及活動を行っていくという役割もっている。厳密にエリアを分けてはいないが、香南歴史民俗郷土館が南部地域において地域の歴史を伝えていき、石の民俗資料館が東部地域にて、石に係わる文化史を基軸とした展示と教育普及を行い、讃岐国分寺跡資料館が西部地域の歴史と讃岐国分寺跡のガイダンス施設としての役割を担っている。歴史資料館は、高松市域の通史を伝えるセンター的な役割もっている。各館の役割を全うしながら、相互に補完しあって役割を果たしていきたい。

また、昨年度より、情報共有の場として館長会を月1回開催し、各館の情報発信方法や課題の確認などを行っており、各館で連携できる部分は積極的に連携を行う姿勢をこれからも続けていきたい。

(委員)

各館の地域での強みは何か。また、各館の利用者数に違いがみられるが特色は何か。

(事務局)

歴史資料館は、全市的な歴史を紹介することを使命としており、収蔵資料数も多いため、様々な資料を掘り起こし紹介していく機能とサンクリスタル学習等を工夫しながら実施し、教育普及の中心施設としての機能を大きな役割としている。

石の民俗資料館は、館の前の石匠の里公園に芝生広場などがあり、休日は家族連れなどでにぎわい、地域の方も喜ばれている。貸館利用者数には、会議室やエントランスホールなどを利用した人数のほかに、歴史資料や石の工芸品のミュージアムショップ利用者数、公園用遊具の貸出人数、展望台利用者数等も含んでいるため多くなっている。

讃岐国分寺跡資料館は、史跡を利用した史跡まつりを開催していたが、令和2年度から2年間開催できておらず史跡公園利用者は大きく減っている一方、一般の公園のように整備しているため、毎日、地域住民や学生たちに身近な施設として利用されている。

また、元々小学校の校外学習や中学校の宿泊学習コースの学習場所となっていたが、最近では学習自体が実施されないため、その分の利用者数減も大きい。貸館では、施設内の作業棟を団体の研修や地域の会合の場所として利用されている。

(委員)

施設の地域へのアピール方法、周知方法は何か。

(事務局)

4館連携にて、年に一度、『高松市資料館だより MAIMAICO (まいまいこ)』に各館の情報を掲載し、配布している。また、3か月ごとに、より詳細な内容の小型情報誌『MAIMAICO OF THE SEASON (季刊まいまいこ)』も作成し、関係機関に配布している。各館の連携やPRについては、より一層方法を考えていきたい。

(委員)

コミュニティとの行事交流やボランティア活動等の募集を行っているか。

(事務局)

歴史資料館では、新型コロナウイルス感染症もあり現在はボランティア募集を行っていないが、以前からボランティア活動で来られていた方にお力添えいただき、活動回数は減っているものの、資料整理をお願いしている。コミュニティとは直接の交流はないが、要望があれば職員が伺い、歴史テーマ等に基づいての説明などを行っている。

議題(2) 令和4年度高松市歴史資料館等事業計画(案)について

(会長)

歴史資料館が開催予定の収蔵品展のコレクション展について、収蔵品には良いものがたくさんあると思うので、いくつか集めて丁寧な説明を加えた上で展示するなど工夫してもらいたい。また、広報手段についてもテレビなどでの情報発信が効果的と思われる。

石の民俗資料館の古文書講座について、講師が讃岐の石文化に造詣が深い方なので、庵治石や牟礼に限らず、讃岐の石文化といったように大きく捉えた講座とするとより面白いと思われる。

香南歴史民俗郷土館の民具の企画展について、ただ展示するだけでなく実際に触ったり使ったりすると面白いと考えるので、ワークショップを開催した方がよいと考える。

讃岐国分寺跡資料館の国指定70周年記念企画展は、せっかくの節目の年の事業であり、企画立案や準備を行っていると思うので、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、すぐに中止にするのではなく、歴史資料館が開催した展示のように、間を開けてからまた再開するなどの対応を検討してほしい。

(委員)

香南歴史民俗郷土館の民具展に興味があるが、先ほど会長からも意見があったように、今の人が見ても使い方が分からないと思うので実際に動かしてみた方がよいと考える。また、民具について、農閑期に作ったり、商品として作ったり等、農村にとって意味があるものと思うので地域に根差した資料館として、農業以外での意味の部分、位置付けなどの説明を展示に付け加えてみてはどうか。

議題(3) その他

サンクリスタル高松の在り方検討について、中央図書館 大嶋館長補佐より報告があった。

(会長)

歴史資料館の運営に指定管理者制度を導入するのは、経済的な効果があがらず難しいため、市の負担は大きくなるが直営で運営するのが良いと考える。

また、図書館や歴史資料館で持っている著作権が切れた書籍の内、需要があるものについては電子データ化してほしい。

(事務局)

電子データ化については、今回の計画に盛り込んで企画しているところとなる。

(委員)

会計年度任用職員の数歴史資料館等を含めても、職員数の大半を占めているのが見受けられる。財政上の問題等があるのかもしれないが、会計年度任用職員に頼らず、できる限り正規職員を多く配置すべきと考える。頭数だけそろえるのではなく、文化的水準を維持するためにも、正規職員を事業に関与させるべきである。

(事務局)

サンクリスタル高松の在り方検討と歴史資料館等の運営において、参考にしたい。

(会長)

サンクリスタル高松の在り方検討では、ソフト面も企画されているか。

(事務局)

ソフト面も含んでいる。

(委員)

サンクリスタル高松の在り方検討の報告を受け、歴史資料館の改修については分かったが、他の3館も開館から30年ほど経過してきているが、改修案はでているのか。

(事務局)

各館老朽化という問題があるところだが、市としてはサンクリスタル高松の前に高松市美術館のリニューアルをしており、今現在、サンクリスタル高松のリニューアルを進めているところとなる。財政的なこともあり市の文化施設を一度に改修ということはできないことから、他の3館の改修についても、必要等に応じ検討していきたい。